編輯室內外

●皇紀二千六百三年も將に終りを告げんとす、回顧すれば幾多の難事に遭遇した、だが大東亞戰は二年に達し、ハワイ緒戰以來殆んと百戰百勝帝國を不退轉の地に在らしむる現地海陸將兵の犠牲勞苦は如何計りか想像し得ざる所である、さはいへ吾人は歲末に際し「發憤食を忘れ、樂み以て憂を忘れ、老の將に至らんとするを知らざる」底の覺悟あるを要す。

●第一次乃至第五次のブーゲンビル島沖航空戰に於て善戰勇戰遂に米國の空母一○戰艦六巡洋艦二七驅逐艦一二其の他の艦船多数を轟沈撃沈撃破し、飛行機五一四以上を撃墜し執拗頑强なる敵の反抗企圖を粉碎したる我海軍將兵に對して其の偉勳を偲び感謝感激に堪えない。吾々は益々戰力の飛躍的増强を圖り前線勇士に報ずる所がなければならぬ。

●インドは我安政四年に東印度會社が廢せられイギリスの直轄殖民地となつた、ビルマは我文政七年に英國と戰ひ二十六年間に亙り第三次開戰遂に英國に併呑せらる、タイ國は我明治三年フランスから侵略され我明治二十六年再び戰つたが英佛兩國の緩衝地帶として存在することとなり漸く命脈を保ち、フイリピンは七、○八三の島から成り明治三十一年米國と戰つて其領土となつた、斯くて此諸國は爾來武力、彈壓、搾取、離間、去勢とあらゆる手段を盡し米英蘭の犠牲となつた國運つき民族は希望を失つた、が今回日本帝國は各其の歷史を重んじ傳統を尊重して互惠共存、政治に、將た、經濟に、文化に提携して所謂共存共榮の發展を圖らんとして、彼の大東亞會議を開いたのである、萬邦をして各其の處を得せしめんが爲めに外ならない、大東亞戰を完遂して眞に東亞の平和は將に近きに在るの感が深かくなるのである。

●十一月四日の閣議で「出版事業整備要綱」が決定せられた。夫れによると現在書籍出版所は二、一六四、雜誌出版所は一、八九四の多きに上つておるが之を整備する曉には書籍出版所二○○以下雜誌出版所一五○以下になるとの事である。之れは單に出版所を減ずるといふのではなく出版界に秩序體系を與へ、企畫力も實踐力もあり而かも公的性格の出版所のみにしようとするに在るとのこと、寔に結構な企圖で惡書、愚書、凡書の汜濫、購讀者の濫雜より救はれて良書が買ひ易くなり、著者と讀者と業者とが三位一體となり得て强力な出版決戰體制が完成することは切望に堪へない、角をためて牛を殺さざるが肝要である。

●官吏、公吏法令により公務に從事する議員、委員其の他の職員が收賄して不正行爲を爲し又は當然爲すべき行爲を爲さりし場合、或は其の地位を利用して不當の利益を得たる場合或は收賄の幇助者は其の罰を加重せん爲め刑法の改正を爲さんとすと聞く、寔に當然で此戰時下官紀の振肅上必要であるが贈賄者を輕く罰さんとするは當らない、公務員の地位の弱さにつけこまれ贈賄者の爲に餘儀なく心にもなき收賄を爲す公務員のあるを思へば果して贈賄者を輕く罰することが策の得たるものなりや、否一考を要す。

●大東亞新聞大會は十一月十七日より三日間開催され日本、中國、滿洲、タイ、フイリピン、ビルマ、香港、ボルネオ、マライ、ジャワ、セレベス、セラム、スマトラの各地新聞代表八十有餘名參集、天羽情報局總裁の演說あり各代表の熱辯による演說もあつて全印度新聞人の健在を祈り相携へ共同の敵と闘はんことを決議し、思想戰の先頭に立つ者の米英の詐術謀略を撃摧し亞細亞興隆世界の平和確立の大使命を遂行に挺身せんことを宣言し次で大東亞新聞協議會設立を可決し此會を了した。

●去る十一月十日國土局では○○特設作業隊員として選抜せられた技師技手屬等○○○○名の爲めに壯行會を開いた宮村局長、岩澤道路課長等列席した。戰はざる戰士、默々として闘ふ土木闘士行け奮へ努めよ自重せよ。

●明治十七年內務省御用掛を命ぜられ縣治局地方局とに在勤すること六十年の五十嵐鑛三郎氏（八二歲）が內務省囑託を辭したるにより明治節の佳き日實業發明、開墾、土木、衞生、社會、公用事業等の功勞者百七十四名と共に特別の恩賞に預り勳五等に昇敍せられた、光榮の至りである。（洮）

〒 定價 一部 金五十錢
一ヶ年分 金六圓

東京都麴町區霞關一丁目內務省內
發行所 社團法人 道路改良會
電話銀座(57)○四二七
振替口座番號東京一九○二六六

東京都赤坂區氷川町一七
發行者 編輯者 平井良成

東京都小石川區諏訪町五六
印刷所（東東三二○） 株式會社常磐印刷所
印刷者 奈良直一

日本出版會會員番號二二○○四五